

NPO法人 町田ハンディキャブ友の会

〒194-0013 東京都町田市原町田4-24-6
第63号 発行責任者 石井 章夫

Tel : 042-721-5721 Fax : 042-721-6605
発行日 2022年11月15日

秋の薰り



てこづかの記念誌について、創立40周年に向けた活動を、皆様からお楽しみください。また、会員の皆様が、この会員登録活動の記念として、40周年に向けた活動を、皆様からお楽しみください。

早いもので今年もあとわずかとなりました。移送サービス事業については、大きな事故もなく順調に進めら
れています。このことは、運転協力会員の皆様による安全運転と利用会員の皆様のご協力の賜物だと思つております。

安心して利用できる
移送サービスを目指して
理事長 石井 章夫

新人ドライバー紹介

二三五

露嶠



おかげさまで4月半ばより協力員となりまして、皆さまの一員として出勤しております。私は長年町田交通安全協会員として、安全運転を心掛けております。

昨年11月に事務局長の井上さんとお会いして、運転協力員のお話を頂きました。

これからも、利用される方々に優しく接して、安心してご利用いただけるよ様に励んでまいります。

協力員として半年になり、慣れが出てくる時期になりますので、初心に戻り自分の健康にも留意していくつもりです。

これからも宜しくお願ひ申し上げます。

古くなつたりフト
車に替り、新しい車
(リース車)が、8
月から運行を開始し
ています。



トヨタのハイエース（リース車）

ドライバーのつれづれ日記



武藤 英雄



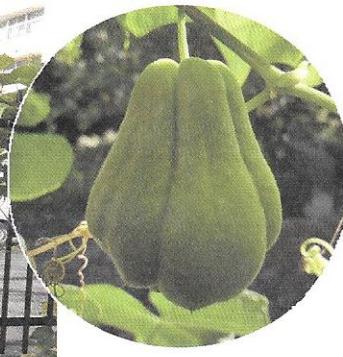
45年のサラリーマン生活を経て、2年ほど家でぶらぶらしていると家内から「ハンディキャブの仕事があるらしい。行ってみたら」と、体よく家を出されました。

仕事の内容は分からなかったのですが、大した躊躇をすることなく入会しました。以来、11年間無事定年を迎える事になりそうです。この間、私が担当し移送した人は、9月末で1833人。男性605人、女性1228人。付添があった人は男性360人、女性291人。男性の約60%は付添があり、女性は28%しか付添はありません。男性はいくじなしなのか、女性が行動的なのか面白い数字です。

利用者の中には元気な人もいれば、体調の悪い人もいます。運転手に気を使う人もいれば、横柄な人もいます。時間に正確な人もいれば、遅れても気にしない人もいます。全く人それぞれです。

利用者のお宅から目的地まで、町田市内あらゆる所を通るため、四季の移ろいもよく感じられます。町田市内は地域ごとにかなり異なります。町田駅周辺は大都会ですが、20分も走ると里山が広がり、春は田植えとカエル、秋は稻刈りとイナゴが飛びかっています。多摩丘陵病院への送迎の時、待ち時間を利用して小山田緑地へ散歩に行くのですが、何もない所なので普段の日では1時間歩いて4～5組位しか人に会いません。静かで良い所です。

縷々まとまりもなく書きましたが、運転手として11年間の思い出です。これから先、ハンディキャブにお世話になる時が来るかもしれません、今まで以上に健康にきをつけようと思います。



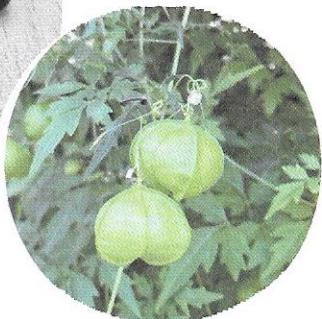
ハヤトウリのカーテン
(左) と大きく実ったハ
ヤトウリの実(上)

緑のカーテン

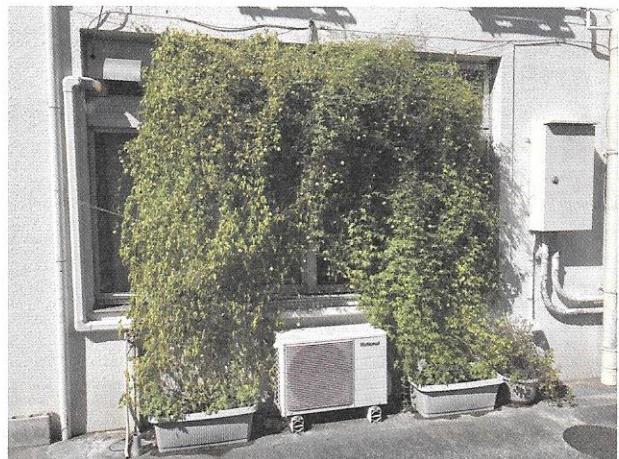
せりがや会館内の事務所では、毎年緑のカーテンで暑い夏を乗り切っています。今年は、フウセンカズラとハヤトウリを植え、立派なカーテンが完成しました。ハヤトウリはこれから時期、食用の実をつけます。



フウセンカズラの カーテン



フウセンカズラの 実（右）と種（上）



フウセンカズラの種は、可愛らしい猿のような顔をしていま
す。

西五渡渡湯宮松松手高相鈴下下佐境小小小加川今井石飯阿
村野辺部川前本沢塚橋馬木村川々峰林竹藤上村上井塚
井井池満百木基百合輝榮金武生三廣美章夫弥生
絢子博宏忠宣司武光明豊直樹鶴子恒夫正健一里子之雄啓次
子

青沼 由美
我妻あゆみ
井上みち子
岩城ミヤ子
薄井ヨシ子
内田芳子
海野美代子
圓林かおる
岡田侃士
葛城尾渡新
尾渡正敏
栗原亞紀子
木幡洋介
木村路恵
小池左加江
後藤利恵
木幡美恵子
塩谷浩一
近野利恵
鈴木淳雄
鈴木澄子
木八重子

高梨 田島 田中 田中 田中 田中
和子 隆子 弘俊 早苗 悅子 菊子 都世子 中川 中田 長嶋 中田 さち子 堀留 福園 福田 福田 あゆ
鶯塚 安田 美登里 雪子 村上 森本 薮崎 犬田 宮崎 岩留 富計 佳代子 明男 あゆ
和子 哲生 正也 健 市郎 淑子 辰子 明男 優子 あゆ



年会費のお振込み
ありがとうございました

(敬称略)

正会員

利用会員

贊助會員

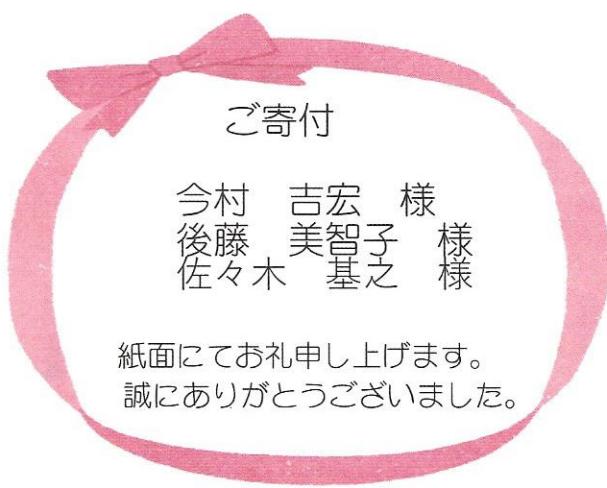
◎40周年記念事業について
町田ハンディキヤブ友の会は、今年で設立40年となります。そこで40周年記念事業といたしまして、「記念誌」の発刊を予定しています。

また、来年2月26日には、シンプラントホテル東京町田で記念式典も開催予定です。詳細は後日お知らせ致しますので、楽しみにお待ちください。

事務局だより

◎会費納入のお願い
町田ハンディキヤブ友の会は、
皆様の会費で運営されています。
今年度の会費未納の方は、お
振込み願います。

◎年末年始の運行について
年末年始は12月30日～1月3日まで運行があ休みです。
(事務所は12月29日～1月3日までお休みです)



〔編集後記〕朝に夕に、一日一日と秋色の深まつてゆく季節。まずれのそぞの季節の風にうながさつつてゆく。なみじ色に染ます。そんなんおだやかな秋日和3年の日差しのなかの、な秋日和10月2日はハンディキヤ3年10月2日はハンディキヤである。その会が自らの足でこの一大地友の一歩を標した日である。

***** シリーズ・ことば *****

名詩への旅

—— 季節の詩(うた) ——

忘れた秋

岸田衿子

待つことを秋の道でおぼえたとき
風は一つ一つの草の実に吹き
野は一日一日の夕焼けを藏った
私はそうして秋を数えていた

昔は何を語り何を聞いたのか
昔は何を待ち何をのぞんだのか
川は知っているらしかった
そうして昔の川は私の傍を流れた

昔いくつかの物語は木の下で眠り
昔いくつかの恋は木の下で別れたと
嘘をつかない楓の木は云った

けれども忘れっぽい蝶は
木の向こうに足音がすることや
木の中にかくれているひとを教えてくれた

(「日本の名詩」大和書房—Nabe選)

